

こぼ見て! クローズアップ

谷汲さん

谷汲山華厳寺

令和元年 日本遺産登録

「谷汲さん」の愛称で親しまれ、西国三十三ヵ所巡礼の三十三番札所、結願の寺として多くの参拝客が訪れます。
寺の草創は延暦17年(798)、開祖は豊然上人で願主は大口大領だとされ、本尊は十一面観世音菩薩です。

門前町商店街を進んだ先に、重厚な仁王門¹が現れます。境内に敷かれた石畳を歩き階段を昇った先が本堂²で、ひんやりとした厳肅な空気と線香の香りが漂っています。本堂左手の笈摺(おいずる)堂³には、巡礼者の着物や杖などがびっしりと納められ、満願成就を報告する人々の敬けんな気持ちが伝わってきます。



2



1

二大名刹 谷汲山華厳寺と両界山横蔵寺…
谷汲界隈はまち自慢の観光スポットです。

1200年の歴史に抱かれた荘厳なたたずまいと、満願霊場としてのにぎわいをあわせ持つ谷汲山華厳寺。二つの異なった趣が四季折々に調和し、訪れた人の心をつかみます。

門前まち

山門から谷汲山仁王門まで800メートル続く参道の両脇には、多くの商店が軒を連ね門前まちが形成されています。さらに魅力ある街並みづくりのため、門前町の人々は知恵をしまり取り組んでいます。

桜並木¹の両側が門前商店街。夏には華厳寺境内でコンサート²。早春には商店街を挙げて軒先に雛人形³を飾り、竹灯籠⁴が参道を照らします。



1



2



3



4

谷汲界隈

両界山横蔵寺

延暦22年(803)、天台宗の開祖最澄が薬師如来像を彫刻し、本尊として安置したのが始まりといわれています。寺には仏像や絵画などの貴重な文化財が多数納められ「美濃の正倉院」とも呼ばれるほか、地元神原郷出身妙心法師の舍利仏でも知られています。紅葉の名所としても人気があり、秋には多くの参拝客が訪れます。



1

2



横蔵寺のシンボル「赤い橋と紅葉」¹。仁王門²。江戸初期に建立された三重塔³。

赤い電車

2001年の谷汲線廃止に伴い、旧谷汲駅には当時使用されていた電車(モ514、モ755)がそのまま保存されています。駅舎もそのままに当時の情景を感じられます。

